



火坂 雅志、伊東 潤著

朝日新聞出版 上2090円 下2145円

ひさか・まさし 1956
~2015。作家。『天地人』など
など。『いとう・じゅん
60年生まれ。作家。
『国を駆った男』など。

戦国時代屈指の有力大名でありながら、後北条氏はいささか地味な存在である。けれども親子兄弟骨肉の争いで弱体化したり、優れた後継者に恵まれずに衰退したりする大名が多い中、北条氏は五代にわたりて一步一歩着実に勢力を拡大していった。北条氏歴代の当主は、それぞれ性格を異にするが、父祖の教えを守り、たすきを受け継ぐかのように領国を発展させ、関東の霸者となつた。武田信玄や上杉謙信のようない英雄個人の名人芸ではなく、組織の力でここまで成功した大名家は他に類を見ない。そんな北条五代を主人公にした歴史小説が、不測の事態が原因とはいえ、2人の作家のリレーで紡がれたことに運命的なものを感じる。本作は、火坂の急逝により未完になるところを、伊東が書き継いで百年の興亡史を完結させたものだ。個性と個性が衝突してしまつのではないかと読む前

は不安だったが、バトンの受け渡しはスマートだ。かといって伊東が自分の持ち味を殺したわけではない。

乱暴に色分けするなら、

火坂が静で伊東が動だろ

う。情感豊かに人物を描き

出す火坂に対し、伊東は手

に汗握る展開で読者を引き

込む。クライマックスに向

かって盛り上げていくとい

う意味において、不幸なラ

ンナーディが結果的に功を

奏した部分もあるかもしれ

ない。

歴史学者の立場から読むと、北条氏の「義」と敵対勢力の悪辣さが強調されすぎているよりも感じられたが、北条氏の主觀ではこれが通りだったのだろう。数ある戦国大名の中でも、南北に最も真剣に民衆にはき合つた大名だったことは事実である。

豊臣秀吉の小田原征伐によって北条氏はあえなく滅びた。しかし北条氏の遺産は後世に引き継がれた。ならば彼らは「勝者」なのでないか。コロナ禍の鬱屈を一時忘れさせてくれる爽やかな読後感。歴史小説の醍醐味である。

評・呉座 勇一

国際日本文化研究センター助教
日本中世史

作者急逝 書き継いだ義の物語

ランキング 私たちはなぜ順位が気になるのか?

ペーテル・エールディ著

高見典和訳 日本評論社 2970円



評・坂井 豊貴
慶應大学教授・経済学
部准教授

数値評価との共存 自己管理を

2000年のアメリカ大統領選で、民主党のゴアは敗北した。泡沫候補のneiderに、僅かに票を喰われ、それが致命傷となつた。勝つたのは共和党的ブッシュ。neiderの有無が、選挙の一位と二位のランキン

グを変えた可能性は高い。小さな要素がランキング結果に大きく影響することはない。他にも散見される。それは評価される側の、行動の変容を起こす。例えばある有力な米国大学ランキン

グは、履修者が19人以下の授業に高いポイントを付けられる。すると大学はポイントを得るために履修者を19人以下にする授業を作る。20人だと学習効果が下がるエビデンスがなくともだ。

とはいえ、人間はランキングを気にするが、ランキングと幸福が一致することは限らない。オリンピックの銀メダリストは、金をとれなかつたと嘆くが、銅メダリストは、メダルをとれたと喜ぶ。比べる相手によつて幸福感は変わるものだ。他

人と比べないことは難しい。だからある社会心理学者は、満足したいなら、自分に有利な相手と比較せよ

という。また、自分を追い込みたいなら、自分に不利な相手と比較せよという。インターネットの普及により、ランキングが活躍する場は急増した。オンライン店舗では、よく商品に点数が付いており、これもその一種だ。点数は商品の個性や、各人との相性を表すわけではない。一つの大まかな評価に過ぎずとも、人が付くのは商品だけではない。店舗にも付くし、顧客にも信用スコアが付く。馬鹿馬鹿しい面はあれども、やはりそれはそれなりに便利なものではあるのだ。

おおらかに我われはこれか

ら更に、様々な数値による評判と共に存していくのだろう。だから著者は「評判なんぜんぜん気にしない」

という態度はあらためた方がよいと説く。好みと好むまいと、評判とは自己管

理の対象なのだ。そのような時代と、その時代を支える人間とを本書はえがく。

暗殺の幕末維新史

一坂 太郎著

中公新書 902円

ドイツの学校にはなぜ「部活」がないのか
非体育会系スポーツが生み出す文化、コミュニティ、そして豊かな時間
高松 平藏著

晃洋書房 1980円

朝日新聞

2021年2月6日(土) 15面